

令和5年度 学校だより 第7号



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」

4月1日よりホームページが移転・リニューアルしました。ブックマークの変更や再登録をお願いします。



高岡市立戸出東部小学校
令和5年10月16日発行

メディアコントロール

教頭 渋谷 圭祐

今を生きる子供たちは、学習専用端末を上手に使いこなし、タイピングの技能も高学年になると目を見張るほどです。一方で、自学ノート等を活用して、「書くことで定着を!!」と説いても、子供たちにはなかなか響かないようです。そんな中、先日、職員室でミニ研修会を行いました。テーマは、「新出漢字が効果的に身に付くようにするにはどうすればよいか」。担任の先生方の悩みを共有し、解決策のアイデアを出し合いました。さっそく、新たな取組を始めた学級もあるようです。



さて、話は変わりますが、ドイツには「閉店法」という法律があるそうです。この法律は、決められた時間帯以外は店を開けてはならないというもので、日曜や祝日は営業しないことも定めています。これは、労働者の長時間労働や深夜勤務を防ぎ、営業時間を延長するなどのサービスに対抗できない小規模店を守るため、便利さを追求する流れに対し法律で歯止めをかける目的があるとされています。こうした法律のお陰で、ドイツ人がとりわけ大切にしている家族との夕食や週末の時間が保障されてもいます。一方日本では、消費者の求めに応じてとことん便利さを追求した結果、24時間営業の店や定休日のない店が増え、挙げ句には元日まで営業する店も。そんな中、町の小さな商店が次々に悲鳴をあげ始め、ギブアップして閉店しています。

便利さと引き換えに大切なものを失いつつあるのは、商業の例にとどまりません。先日、JRを利用する機会がありましたが、多くの乗客はそれぞれに各自のスマホを見ていました。日本でまだスマホがほとんど普及していなかった頃、自分は列車内で何をしていたか、あまり思い出せませんでした。移動中の暇な時間を埋め合わせできるスマホはとても便利な一方、自分自身を省みる時間や、人と会話して共感し合う時間が急速に失われてきたようにも感じます。ファミリーレストランに家族で食事に来ているのに、スマホ画面に夢中になっている親子を見て、違和感を覚えたこともありました。せつかくの休日。せつかくの家族の食事。レストランは、何のために（誰の幸せのために）営業しているのでしょうか？



自分とスマホとの距離感はどうだろうか、そう思って振り返ったとき、スマホを家に忘れ、焦ってしまった経験。便利で調べ物ができる一方、広告やニュースに寄り道してしまい、無料のサービスに浸った経験。使いこなしているつもりが、気が付いたらスマホやネットに使われてしまっています。便利になったがゆえに、その呪縛から抜け出せないでいることに気付かされます。便利さを否定するつもりはありませんし、法律やルールで規制すべきものでもありませんが、自分では遠ざけにくいしくみが巧妙にできあがっている気がしました。

今日から、校区内の小中学校一斉にメディアコントロール週間が展開されます。便利さと引き換えに失いつつあるものに気付けることや、メディアとの付き合い方を意識し自分をコントロールできるようになることは、とても高度な力のように思えます。自戒の念も込めて、自分も「メディアコントロール」に取り組みたいです。